

大原社会問題研究所五十年史

IV 東京移転より終戦まで〔一九三七～四五年〕

日本労働運動史編集の計画

一九三八年 昭和十三年 東京移転後の新事業として計画されたものに、日本労働運動史の編集執筆がある。これは大内氏の発案によるもので、後藤貞治氏ら資料係が中心となってこれまで長期にわたり集めた労働組合、農民組合、政党関係の原資料や機関紙誌類を使って新しい労働運動史を書こうというもので、大内、久留間、鈴木、亀島の諸氏は、このための準備として研究会を開き、編集方針を討議しつつあった。しかしこの研究会の成果が見られぬ内に、予期しない事故が発生して計画は挫折した。一九三八年(昭和十三年)二月一日、第二次人民戦線事件の発生で大内氏が教授グループの一人として検挙されたのである。大内委員は休職となった。日本労働運動史編集はついに実現しなかった。

四月には亀島泰治氏が退所して法政大学に転じ、五月には、細川氏を研究嘱託として米騒動の調査を担当せしむることにし、翌六月には、権田氏も研究嘱託として民衆娯楽の調査に当ることになった。

『日本労働年鑑』も、検閲のきびしくなるにつれ、また統計資料類の入手困難も増大し、次第にその編集発行が困難になった。そして遂に一九四一(昭和一六)年にいたり、その発行を停止するのやむなきにいたる事情については後にのべる。

なおこの年三月八日、永年、所の監事として尽力された柿原政一郎氏に対し、同氏の監事辞任を機に、高野、久留間両理事は感謝の意を表し、記念品を贈呈した。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

研究活動・刊行物 [OISR.ORG全文検索](http://oisr.org)

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
